

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0862
住 所 川崎市川崎区浮島町10-8
氏 名 日本合成アルコール株式会社
代表取締役社長 守谷 治

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第 1 0 条第 1 項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日本合成アルコール株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区浮島町10-8		
該当する事業 者の要件	☒ 規則第 4 条第 1 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 2 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 3 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 4 号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	工業用アルコールの製造		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量	13,325	k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成28年度 ～ 平成30年度（報告年度 平成30年度分）
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 27,306 t-CO ₂ (調) 27,204	(実) 25,483 t-CO ₂ (調) 25,385	(実) 26,633 t-CO ₂ (調) 26,533	(実) 26,056 t-CO ₂ (調) 25,958	(実) 26,868 t-CO ₂
削減率		(実) 6.7 % (調) 6.7	(実) 2.5 % (調) 2.5	(実) 4.6 % (調) 4.6	(実) 1.6 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	生産量		単位	t-CO ₂ /kL	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	0.4147	0.4491	0.4150	0.4116	0.4085
削減率		-8.3 %	-0.1 %	0.7 %	1.5 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	場内照明のLED化、装置から発生するオフガス燃焼装置の新設等で排出量削減を図ったが、圧縮機故障のため合成系2系列のうち1系列が約2ヶ月間稼働できなかった。この期間の燃料使用量減少で二酸化炭素排出量は減少したが、生産量の減少と非効率な運転等により原単位は悪化した
第2年度	基準年度と比較し生産量が減少した（基準年度：65,840kL、第2年度：64,170kL）ため、二酸化炭素排出量は減少した。通常、装置の特性上、原単位は生産量が少ないと悪くなるが、加熱炉の都市ガス使用原単位改善の推進等により、基準年度と同等の原単位を維持することができた。
第3年度	反応塔を大型のものに更新したことに伴い、加熱炉での都市ガスの使用量は増加した一方で、蒸留塔の運転最適化検証により使用蒸気を削減できたため、基準年度と同等の原単位を維持することができた。 計画期間3年間を通して圧縮機の故障と減産等で一時的な原単位の悪化が生じたが、設備改善と最適化で基準年度より排出量は減少し目標を達成した。また原単位は目標を達成することはできなかったが基準年度より向上させることができた。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	・主要設備等の保全管理 ・生産設備のエネルギー管理 ・照明設備の新設、更新等 ・その他
	第1年度	・照明設備の新設、更新等 場内蛍光灯43基、水銀灯3基をLED灯に交換した ・その他 アルコール精製工程から発生するオフガスを加熱炉で燃焼させる装置を新設し都市ガスの削減を行った
	第2年度	第1年度の対策に加えて ・生産設備のエネルギー管理 合成系の運転最適化検証を実施し、加熱炉での都市ガス使用原単位改善を推進した ・照明設備の新設、更新等 場内蛍光灯124基をLEDに交換して99基とした
	第3年度	・主要設備等の保全管理 現状設備での運転最適化検証を実施してきたが未達の部分もあるため、継続検討 ・生産設備のエネルギー管理 蒸留塔の運転最適化検証を実施し、蒸気原単位改善を推進したが、2018年度更新の反応塔に関しての運転最適化検証は未了のため、継続実施 ・照明設備の新設、更新等 場内蛍光灯42基、不良灯具24基をLED灯に交換し、2019年度にて完了
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

当社では現在のところ再生可能エネルギーの利用は考えていない

[illegible][illegible]

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第 1 年度	なし
第 2 年度	なし
第 3 年度	なし

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	・グリーン購入の推進 (EMS) ・廃棄物の減量化 (EMS)
第 1 年度	・グリーン購入の推進 (EMS) ・廃棄物の減量化 (EMS)
第 2 年度	・グリーン購入の推進 (EMS) ・廃棄物の減量化 (EMS)
第 3 年度	・グリーン購入の推進 (EMS) ・廃棄物の減量化 (EMS)

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	25,729	t-CO ₂
(調)	25,587	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	川崎市川崎区浮島町10-8	1632	脂肪族中間物製造業	25,729 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--